

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人岐阜大学

## 1 全体評価

岐阜大学は、「人が育つ場所」という風土の中で「学び、究め、貢献する」人材を社会に提供するとともに、法人自体も「学び、究め、貢献する」地域に溶け込む大学であるべきことを理念とし、地域社会の活性化の中核拠点として、地方創生の一翼を担うことを目指している。第3期中期目標期間においては、学生の主体的な学びを推進し、教育の質保証システムを充実させ、高度な専門職業人の養成と地域単位でのTeach for Communitiesを実現すること、教育の基盤としての質の高い研究活動をそれぞれの分野で着実に実践すること、地域に根ざした国際化と成果の地域還元によってグローバル化を実現すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、事務職員の国際性資質向上へ向けた海外研修を実施しているほか、地元企業との交流を通じて共同研究を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 研究推進・社会連携機構研究推進部門に研究力強化ワーキンググループを設置し、論文データベース等を活用した研究力の向上に取り組んでいるほか、機関リポジトリの整備によって、公表研究成果を的確に把握するための仕組みを構築している。（ユニット「次世代生命科学研究における拠点の整備及び研究の推進」に関する取組）
- 次世代地域リーダー育成プログラムに、新たに「産業リーダーコース」を設置し、新規に開講した科目や共通プログラムを実施することで、産業界ニーズに適合した人材育成に取り組んでいる。（ユニット「『地域活性化の中核的拠点大学』としての機能強化」に関する取組）

## 2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

## ○ 事務職員の国際性資質向上へ向けた海外研修の実施

事務系職員海外実務研修として、海外オフィス（広西大学（中国）内オフィス及び上海オフィス）に事務職員を派遣しており、「岐阜大学フェアin広西大学」を開催するとともに、岐阜大学の広報や留学を希望する学生の支援等を行い協定大学との連携の強化を図っているほか、岐阜県海外駐在員事務所と連携し、中国に進出している岐阜県企業との交流を行っている。加えて、ビジネス英語能力及び大学の国際化を推進するための能力を培うことを目的にニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）附属語学学校にて職員研修を実施するなど、合計21名の事務職員を海外研修に派遣している。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産運用管理の改善

### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

### ○ ESCO事業による大幅な光熱水費の削減

附属病院において病院ESCO事業を開始しており、事業開始に先立ち、空調設備を省エネルギー効果の優れた製品に交換するなど、施設設備の改修を行った結果、光熱水費の年間削減目標額約8,000万円を上回る、約9,300万円の削減を実現している。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全 ③法令遵守

### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

### ○ 情報セキュリティマネジメント上の課題

情報セキュリティを脅かす確率が高い事例が発生し、また、必要な情報セキュリティ対策が講じられているとは言えないことから、再発防止に向けた組織的な取組を更に実施することが望まれる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

### ○ ピア・サポーターを通じた学生支援の拡充

学生支援を拡充するため、学生自身をピア・サポーターとして養成するための授業を全学共通科目として開講している。ピア・サポート概論、コミュニケーションの基礎、傾聴技法、会話法、自己分析、ブレインストーミング技法、課題解決スキル、社会的弱者の理解と支援等の内容で構成しており、単位取得者には「岐阜大学ピア・サポーター」の資格を付与（平成28年度は35名）している。また、ピア・サポート活動を活性化するためのプログラムとして、受講生の一部有志が中心となり、学生同士の語らいの場、集いの場の運営を企画し開催するなど、支援活動に取り組んでいる。

### ○ 留学生の就職に係る支援活動の実施

留学生に県内企業を紹介する、地元企業との交流会や留学生フォーラムを地元金融機関と共催で実施するなど、留学生の就職支援活動を推進している。また、岐阜県環境技術センター及び民間企業でのインターンシップや、高山市のNPOまちづくりスポットでのインターンシップに留学生が参加し、各種イベントの補助、SNSでの情報発信、地域住民の異文化学習等に協力しているほか、岐阜県が将来的な県内企業での留学生の雇用拡大に向けて、企業と留学生の相互理解を促進するために「留学生インターンシップin GIFU」を実施している。

### ○ 地元企業との交流を通じた共同研究の推進

地域産業界のニーズを把握するため、岐阜大学地域交流協力会の会員企業42社を訪問するなどの取組を実施している。また、大学の技術シーズと企業ニーズとのマッチングの機会を提供すること等を目的に、地域中核企業との技術交流会やラボツアーを実施しているほか、岐阜大学産学連携フェア2016においては、講演会及びパネル展示並びに技術シーズの紹介を行っている。さらに、岐阜大学地域交流協力会主催の出前セミナーを実施し、新たに岐阜大学地域交流協力会の会員企業を対象にR&D（研究開発）支援事業を実施している。これらの活動の結果、共同研究の契約件数は315件、契約金額約3億2,680万円となっている。

## 附属病院関係

（教育・研究面）

### ○ 電子カルテのデータ活用による質の高い臨床研究の推進

院内のウェブブラウザを利用した電子データ収集システム（EDC）を導入し、電子カルテから臨床研究に必要なデータを自動的に取得することで医師の転記入力作業の省力化や誤入力の防止、効率的な臨床研究データの収集を可能とするとともに、データ入力時のチェック機能や監査証跡の自動化機能の活用によってデータの品質の向上を図るなど、質の高い臨床研究を推進している。

**(診療面)****○ 患者サービスの向上に向けた会計待ち時間短縮の実施**

患者の会計待ち時間の短縮のため、会計窓口を増設するとともに、事前の利用登録により患者がキャッシュレスで外来診療を受け、診療終了後に会計計算を待たずに帰宅可能となる診療費後払いサービスを中部地区の大学病院で初めて導入したことにより、会計の最大待ち時間が従前の48分から15分に短縮されるなど、患者サービスの向上が図られている。

**(運営面)****○ 国立大学病院管理会計システム（HOMAS2）の活用等による医業費用の支出抑制**

新たに運用を開始した国立大学病院管理会計システム（HOMAS2）やその他分析ツールを利用し、全国国立大学病院間での自院の立ち位置を可視化した資料を会議や診療科等別ヒアリング等に提示して経営改善を促進した結果、後発医薬品採用率の向上（平成28年度：上半期63%→下半期81%）による約1,300万円の経費削減や、医療材料の価格交渉による約6,500万円の経費削減を実現するなど、医業費用の支出抑制を図っている。

**○ 夜間・休日・病児・病後児保育所の開所による職員のキャリア支援**

夜間・休日・病児・病後児保育所「なかよし」を開所し、子育て中の職員の夜間及び休日勤務時における児童保育を行うことにより、職員の仕事と育児の両立を支援するとともに、専門職としてのキャリアアップを図ることにより、医療の質の維持・向上を推進している。

**○ 地域医療連携の充実等を目的とした附属病院における医療活動の積極的な発信**

地域医療連携の充実を図るため、附属病院で行われている医療活動についてまとめた書籍『岐阜大学医学部附属病院ここがすごい。』を作成し、病院の概要、各診療科・中央診療施設の特長、治療を行う病気や提供している治療方法等を網羅的かつ詳細にわかりやすく紹介することで、地域の医療従事者や一般県民・市民の附属病院に対する理解の醸成に取り組んでいる。